

原料厳選
New

Water
Farm



養液栽培用肥料

ウォーターファーム

商 品	荷姿	窒 素			水溶性 リン酸	水溶性 加里	水溶性 苦土	水溶性 マンガン	水溶性 ほう素	効果発現促進材			
		全量	アンモニア	硝酸						鉄	銅	亜鉛	モリブデン
水耕栽培 ウォーターファーム 1 号	10kg ポリ	10.0	1.0	7.9	8.0	27.0	4.0	0.10	0.10	0.20	0.003	0.007	0.003
水耕栽培 ウォーターファーム S1 号	10kg ポリ	9.0	-	8.0	7.0	32.0	4.0	0.05	0.07	0.15	0.002	0.006	0.002
水耕栽培 ウォーターファーム果菜用	10kg ポリ	9.0	1.3	7.7	6.5	27.0	5.1	0.11	0.11	0.31	0.007	0.030	0.010
微量元素複合タイプ ウォーターファーム 5 号 L	5ℓ×3	-	-	1.5	-	6.5	-	0.20	0.40	0.7	0.01	0.04	0.01
微量元素複合タイプ ウォーターファーム 5 号 P	10kg ポリ 1kgポリ×20	4.5	1.8	2.7	-	6.0	4.5	1.3	3.3	5.65	0.05	0.08	0.05

SHK・NEW ウォーターファームは、

原料厳選により pH (水素イオン濃度) を安定させ、溶けやすさを実現しました。※

鉄資材などの pH (水素イオン濃度) 許容範囲が広がり、効果発現促進材をより効果的に
施用できます。※

※当社比

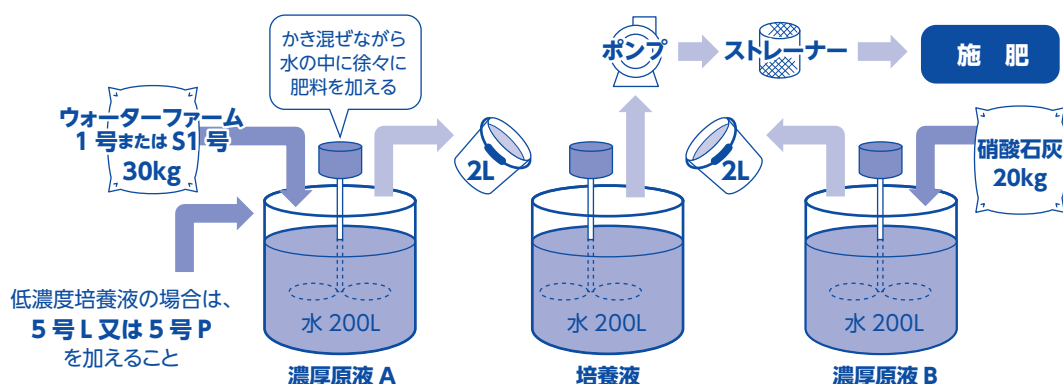


清和肥料工業株式会社

NEW

養液栽培向け ウォーターファーム 1号、S1号、果菜用

- 原水 200 リットルに本製品 30kg (保存原液 A) と硝酸石灰 20kg (保存原液 B) をそれぞれ別のタンクで溶かせば、標準濃厚原液を作ることができます。
- 濃厚原液は、肥料が溶けにくい場合がありますので、十分な攪拌時間をとってください。
- 使用に際しては、濃厚原液A及びBの各 2 リットルを原水 200 リットルに溶解し培養液とします。
- 保存原液を希釈し培養液を作るときは、先に所要量の原水をタンクに満たし、かき混ぜながら保存原液 A、続いて保存原液 B を加えてください。
- 濃厚原液同士は混合すると沈殿が発生しやすくなりますのでお控えください。



- 原水の水質によって、pH 降下剤または上昇剤を使って、培養液の pH が作物の適正範囲になるように調節してください。
- この培養液は多くの果菜類、葉菜類、花き類などで使用できる処方です。
- 育苗期など、低濃度で使用する場合は、ウォーターファーム 5号Lまたは5号Pを添加してください。

微量元素複合タイプ ウォーターファーム 5号L(液剤)、5号P(粉末)

ウォーターファーム5号Lは液体タイプの総合微量元素肥料です。

- 処方により、培養液 100 リットル当たり、40 ミリリットル程度添加します。標準より低濃度の培養液を使用する場合は、培養液 100 リットル当たり 30 ～ 50 ミリリットルを添加してください。

ウォーターファーム5号Pは粉末タイプの総合微量元素肥料です。

- 処方により、培養液 100 リットル当たり 5g を目安に添加します。標準より低濃度で使用する場合は、培養液 100 リットル当たり 4 ～ 5g を添加してください。
- 単肥を用いて培養液を処方する場合の微量元素源として使用する場合には、培養液 100 リットル当たり 10 ～ 15gを目安に使用してください。



詳しくは

清和肥料工業 ウォーターファーム

検索



⚠ 使用上の注意事項

- ※ 肥料投入量は、一般的な基準 (水道水) です。作物の種類、生育ステージ、季節等によって適宜増減する必要があります。また、原水の水質等によって増減する必要がある場合があります。
- ※ 培養液の養分バランスが許容範囲を超えて変化した場合、病原菌に汚染された場合は、培養液の全量を更新してください。
- ※ 品質の劣化を招く恐れがある為、高温多湿、日の当たる場所での保管厳禁。直射日光の当たらない、乾いた場所で保管し、できるだけ早く使い切ってください。
- ※ 強い毒性はありませんが、口や目に入れしないでください。手などに傷がある場合は、ゴム手袋等を使用し、傷口に肥料が付着しないように注意してください。また、肥料を取り扱った後は、手洗い、洗顔、うがい

等を行ってください。

- ※ 農薬との混合は原則的に出来ません。特にアルカリ性農薬や金属元素を含む農薬との混合は行わないでください。
- ※ 水質 (硬度、pH など) によって溶解性が変わることがあります。硬度の高い水の使用は避け、必ず培養液の pH をチェックし、適正範囲となるよう注意してください。
- ※ 濃厚原液は、時間の経過によって濃度が高くなったり、養分濃度のバランスが崩れることがあります。継ぎ足しは十分に注意するとともに、定期的な洗浄を心掛けてください。